

論文審査の結果の要旨

2024 年 2 月 7 日

学位論文題目 がん化学療法施行患者における有害事象と患者背景および
支持療法に関する研究

学位申請者 清水 敦也

審査委員	主査	佐藤 秀紀	
	副査	今田 愛也	
	副査	立浪 良介	

申請者は、オキサリプラチン、パクリタキセル、ドセタキセルによって発現した化学療法誘発性末梢神経障害に対するミロガバリンの効果について、PRO-CTCAE を用いて評価した。その結果、化学療法誘発性末梢神経障害に対するミロガバリンの投与は、オキサリプラチンを含むレジメンで治療した患者において、安全で有効な支持療法薬になりうることを示した。さらに、大腸がんの術後補助化学療法 CAPOX 療法を施行した患者における術前の GNRI と有害事象発現、および治療期間の関連性について評価した。その結果、大腸がん術後補助化学療法である CAPOX 療法施行患者において、術前 GNRI は、CAPOX 療法の有害事象発現、および完遂に影響を及ぼす因子になりうることを示した。さらに、肺がんの免疫チェックポイント阻害薬単独療法において、治療開始前の GNRI と有害事象発現に及ぼす影響、および治療成功期間との関連性について評価した。その結果、治療開始前の GNRI は、免疫チェックポイント阻害薬単独療法の有害事象発現、および治療継続に影響を及ぼす因子の指標になりうることを示した。

以上より、本研究で得られた知見は、がん薬物療法にける病院薬剤師の介入が有害事象をマネジメントし、治療の遂行および効果の向上に寄与することが期待される重要な情報をもたらすものである。以上のことから、本論文は本学の博士論文として評価に値するものと認定した。

学 力 確 認 の 結 果 の 要 旨

2024 年 2 月 7 日

学 位 申 請 者 清 水 敦 也

審 査 委 員 主 査 佐 藤 秀 紀



副 査 今 田 愛 也



副 査 立 浪 良 介



試問により英語学力を含む学力確認を行った結果、博士課程を修了したもの
と同等以上の学力を有すると認定した。

試験の結果の要旨

2024 年 2 月 7 日

学位申請者 清 水 敦 也

審査委員 主 査 佐 藤 秀 紀



副 査 今 田 愛 也



副 査 立 浪 良 介



学位論文を中心とした関連科目についての試験を行った結果、合格と認定した。

2024 年 2 月 7 日

北海道科学大学大学院

薬学 研究科 長 殿

審査委員

主 査 佐 藤 秀 紀



副 査 今 田 愛 也



副 査 立 浪 良 介



学位論文審査、試験及び学力確認報告書

学位申請者 清 水 敦 也

上記の者提出の学位論文の審査、試験及び学力の確認を実施した結果、
合格と認定しましたので、論文審査の結果の要旨、試験及び学力確認の結果
の要旨を添えて報告いたします。

2024 年 2 月 7 日

審査委員主査

佐藤 秀紀 殿

審査委員 今田 愛也



学位論文審査、試験及び学力確認報告書

学位申請者 清水 敦也

上記の者提出の学位論文の審査、試験及び学力確認を実施した結果、合格と認定しましたので報告いたします。

学位論文 題 目	がん化学療法施行患者における有害事象と患者背景および 支持療法に関する研究		
学位論文審査報告		判 定	合 格
結果の要旨 学位論文審査の結果、本論文は本学の博士論文として相応しいものと認定した。			
試 験 報 告		判 定	合 格
結果の要旨 学位論文を中心とした関連科目についての試験を行った結果、合格と認定した。			
学 力 確 認 報 告		判 定	合 格
結果の要旨 試問により英語学力を含む学力確認を行った結果、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認定した。			

2024 年 2 月 7 日

審査委員主査

佐藤 秀紀 殿

審査委員 立浪 良介



学位論文審査、試験及び学力確認報告書

学位申請者 清水 敦也

上記の者提出の学位論文の審査、試験及び学力確認を実施した結果、合格と認定しましたので報告いたします。

学位論文 題 目	がん化学療法施行患者における有害事象と患者背景および 支持療法に関する研究		
学位論文審査報告		判 定	合 格
結果の要旨 学位論文審査の結果、本論文は本学の博士論文として相応しいものと認定した。			
試 験 報 告		判 定	合 格
結果の要旨 学位論文を中心とした関連科目についての試験を行った結果、合格と認定した。			
学 力 確 認 報 告		判 定	合 格
結果の要旨 試問により英語学力を含む学力確認を行った結果、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認定した。			